

# 明治大学寄付講座をのぞいてみた

## ～組合による社会貢献のカタチ～

### 地方自治体の役割や 公共サービスの意義を大学生に

自治労は、2009年から明治大学で寄付講座「地方自治体の仕事と労働組合」を開講し、本年も4月から7月まで毎週火曜日の午後、多様な職場で働く自治労の仲間が大学生にむけて熱い講義を展開する。10年目を迎えた同講座について連載する。

4月10日、「日本のカルチエラタン」といわれる東京・御茶ノ水にそびえ立つ同大のリバティタワー10階で今年の講座はスタートした。この日はガイダンスで、豊福組織対策局長が自治労の紹介

や地方自治体の仕事について説明した。

同大労働教育メディア研究センターと協力してスタートした講座は全部に開かれた共通講座として開講し、毎年70人程が受講している。同大の講座開設は、地方公務員の就職志望者が多いことや都心にあることに加え、何より労働組合や自治労運動への理解がある先生方の存在が大きい。講座は住民の健康と福祉を守るセーフティネットとしての地方自治体の役割や地域の活性化、働く

者の権利擁護など諸課題について考える構成としている。

この日の最後には、大学OGで自治労本部国際担当の川上奈月さんが「自分が関心ある分野とそれに関連する仕事のマッチングは大切で、必要となる勉強も見えてくる。この講座はいろんな職の人から話を聞き、働くイメージを抱くことのできるまたとないチャンスとなるため、ぜひ活用してほしい」とメッセージを送った。

の講座開設は、地方公務員の就職志望者が多いことや都心にあることに加え、何より労働組合や自治労運動への理解がある先生方の存在が大きい。講座は住民の健康と福祉を守るセーフティネットとしての地方自治体の役割や地域の活性化、働く

○寄付講座：企業・団体等からの寄付によって運営される講座。寄付趣旨に基づきカリキュラムを企画・運営する。大学教員と寄付企業・団体に関係する実務講師とのコラボレーション・プログラムは学生にも好評で、明治大学は、公開教育事業を通じて、産業社会・地域社会との交流を積極的に展開している。（明大HPより引用）



▲学生を前に体験を語る川上奈月さん